Vol. 7

きっかけは「運命」２つの八分音符

トランペット首席　井上 直樹（いのうえ なおき）

Q トランペットに出会ったきっかけは？

A もともと兄貴がヴァイオリンをやっていて、自分でも楽器をやってみたいなぁと思っていたときに、たまたまテレビでトランペットの特集があって、たまたま録音していた、アンダーソンの「トランペット吹きの休日」を繰り返し聴いていました。３本のトランペットのハーモニーとか、音の魅力もとても格好良いなぁと思って。それからは、楽器屋さんのショーウィンドウを眺める生活。小学５年生くらいからは、クラシックのCDばっかり聴いている風変わりな小学生でしたよ。実際に楽器を始めたのは、中学３年生のとき。見かねた親が楽器を買ってくれると言うので、一番安いトランペットを買ってもらいました。それからは楽しくて、毎朝５時半に起きて、６時から７時半まで公園で吹いてから学校に行っていた。もう成績が下がりっぱなしで(笑)、音楽の先生が勧めてくれて、高校から音楽の学校へ行きました。

Q トランペットの魅力を教えてください。

A オーケストラの中で最も人の感情を表せる楽器の一つだと思います。ミスしたときの影響力は大きいけど、オーケストラのカラーを左右するとても重要な楽器ですし、それが魅力かなぁ。

Q 好きなトランペッターは？

A やっぱり自分の先生、元ボストン交響楽団首席のチャールズ・シュリューターですね。他にもジャンルは違っても、ジャズやポップスでも尊敬する奏者はたくさん。演奏で迷ったときには、先生だったらどうやって吹くかを最優先に考えます。それが解決の糸口になったり。19歳のときに、楽器と着替えだけを持ってアメリカまで訪ねて行ったんです。超有名なプレイヤーなのに、手紙一つ出して押しかけて、１ヶ月レッスンしてもらいました。今の若い人たちにももっとハングリー精神を持って欲しいなぁ。

Q 好きな作曲家は？

A 多すぎて、一番困る質問！嫌いな作曲家もいないし、みんな好き。でも、好きとか嫌いとかではなく、ベートーヴェンに関しては、自分の中で共感するものがあるなぁと思う。実はオーケストラのトランペット奏者になりたいと思ったのは、「運命」第２楽章の八分音符たった２つのファの音、それが吹きたい！と思ったのがきっかけなんです。

Q 現在の使用楽器について教えてください。

A メインで使っているのは、デイブ・モネットが作ってくれた楽器で、20年近く使っています。他にも、ヤマハの楽器とか古楽器なんかを入れると30本くらいある(笑)。

Q アメリカやスイス留学経験について

A 一番感じたのは、日本人が優れているということ。そして、その反面、日本にはまだ西洋音楽の歴史が浅いので、言葉の問題をしっかりクリアしないと本当の意味で西洋音楽を奏でることは難しいと感じました。ヨーロッパなどでは、教会が多いからバッハの音楽がすごく身近で浸透している。歴史や生活習慣に根づいているんですよね。

Q 山形の最初の印象を教えてください。

A 東京で生まれ育って、右も左も分からないまま山形に来てオーケストラ生活が始まって、山形の自然や景色を感じる余裕が全くなかったんです。自分の焦りや不満を全部苛立ちで解決していて、当時いらした指揮者や先輩方には本当に申し訳なく思っています…。それにもかかわらず、温かく助言してくださった。山響に入って25年、年齢もだんだん上になって、重要なことも任せていただいて、自分にそんな資格はないんだけど…、この場をお借りして謝りたいことがいっぱいです。本当に！！！反省しかない…。

Q 山形でお気に入りの場所やものはありますか？

A 西蔵王が好きで、よくのんびりしに行きます。人には教えたくない秘密の停車スポットがあって、疲れたときはよくそこに車を停めて音楽を聴いています。

Q 休みの日は何をして過ごしていますか？

A 釣りだね！休みの日は釣りのことばっかり考えてる。ちょうどこの時期は、海でブリを釣るのが楽しみです。

Q 最後に、お客様へのメッセージをお願いします。

A 山形に山響が存在する意義というものを、もっともっと明確にお伝えできるオーケストラになりたいなと思っています。それは、僕達の使命として、この町の皆さんに正しい西洋音楽をお伝えする楽団でなければいけないと思っているので、存在意義というものを突き詰めて、良い音楽をお届けできるようになりたいと考えています。

次回は、袁 寿義さんです